

「見えない力」紡ぐ寺院

地域の核としてダイナミックな活躍を

こころ愉しく生きるヒントに

宗教者1000人アンケート実施

ファイナンシャル・プランナー

勝 桂子



「宗教は現代人に癒し与える」77%

を終息させることが難しい」と格付け会社から釘を刺された今だからこそ、ほんとうに価値あることを生み出すための国力・地力を

「二人」(KKベストセラーズ)を

100人強へのメール配信と、ブログやフェイスブックでの配信、

個人に近づけることのある宗教者

「二人」(KKベストセラーズ)を

100人強へのメール配信と、ブログやフェイスブックでの配信、

個人に近づけることのある宗教者

この年末で、アベノミクスによる「脱・デフレ政策」が丸2年を迎える。株価は上昇し、円安で輸出産業は好況となった。だが大局的にみれば、わが国の状況はまだ、決して良好とはいえない。米国の格付け会社は、わが国の財政赤字対策が甘いと判断し、日本国債の評価を格下げした。

ファイナンシャル・プランナーの観点で過去2年間を検証すれば、新たな価値を生み出していかないにもかかわらず、政府の介入によって、流通する貨幣だけが増えている」ともいえる。

実質を伴わない好景気分が走った2年が過ぎ、「日本はデフレ

示すべきだ。そのために、地域の核として、寺院が活躍する好機がやってきたと思っている。

寺院は、補修費や増改築費用など大きな資金を蓄え動かさざるを得ないから、株価の上昇に目がいきがちかもしれない。しかし私は、宗教の真の使命を、目先の数値や情報で表現されない「見えない力」をダイナミックに動かす」ところにあると信じている。そして

寺側の意識も、被災地支援や急増するこころの病への対応等を通して、こころで着実に培われてきている。

去る11月26日に発売された月刊「二人」(KKベストセラーズ)を

「二人」(KKベストセラーズ)を

「二人」(KKベストセラーズ)を

「二人」(KKベストセラーズ)を

「二人」(KKベストセラーズ)を

「二人」(KKベストセラーズ)を

「二人」(KKベストセラーズ)を

「二人」(KKベストセラーズ)を

「二人」(KKベストセラーズ)を

「二人」(KKベストセラーズ)を

「二人」(KKベストセラーズ)を

「二人」(KKベストセラーズ)を

「二人」(KKベストセラーズ)を

「二人」(KKベストセラーズ)を

「二人」(KKベストセラーズ)を

「二人」(KKベストセラーズ)を

「二人」(KKベストセラーズ)を

「二人」(KKベストセラーズ)を

「二人」(KKベストセラーズ)を

「二人」(KKベストセラーズ)を

「二人」(KKベストセラーズ)を

「二人」(KKベストセラーズ)を

「二人」(KKベストセラーズ)を

で、「名僧100人に尋ねよ こころ愉しく生きるヒント」という宗教特集を組むというので、編集協力させていただいた。そのなかで、「宗教者100人に訊きまじた！ 私が実践するこころの癒し方」聖職者たちが本場に救われた、救った瞬間」と題したアンケートを実施した。このアンケート結果をまとめてみて、真のデフレ脱却を達成させるため、宗教者の力こそ必須であることを改めて肌で感じたので、この場で報告したい。

個人的に近づけることのある宗教者

100人強へのメール配信と、ブログやフェイスブックでの配信、

個人に近づけることのある宗教者

100人強へのメール配信と、ブログやフェイスブックでの配信、

個人に近づけることのある宗教者

100人強へのメール配信と、ブログやフェイスブックでの配信、

個人に近づけることのある宗教者

100人強へのメール配信と、ブログやフェイスブックでの配信、

個人に近づけることのある宗教者

100人強へのメール配信と、ブログやフェイスブックでの配信、

個人に近づけることのある宗教者

100人強へのメール配信と、ブログやフェイスブックでの配信、

個人に近づけることのある宗教者

100人強へのメール配信と、ブログやフェイスブックでの配信、

個人に近づけることのある宗教者

100人強へのメール配信と、ブログやフェイスブックでの配信、

個人に近づけることのある宗教者

100人強へのメール配信と、ブログやフェイスブックでの配信、

個人に近づけることのある宗教者

100人強へのメール配信と、ブログやフェイスブックでの配信、

個人に近づけることのある宗教者

100人強へのメール配信と、ブログやフェイスブックでの配信、

個人に近づけることのある宗教者

100人強へのメール配信と、ブログやフェイスブックでの配信、

個人に近づけることのある宗教者

に加えてBBA!!(ボーズ・ピー・アンビニヤス!!)のメーリングリストでも告知していただくことができ、予定の1000件を満了す回答を得ることができた。

選択肢でお答えいただく部分のほか、自由コメントの記入も多かった。回答には時間もかかったと思う。にもかかわらず、配信数のおよそ7割という高い回収率を実現。「地域や社会のために何かしたい」という宗教者の強い熱意が感じられた。

回答内訳は、仏教信者95%(天台・真言系28%、浄土・日蓮宗系42%、禅宗系25%)、神職2%、キリスト教3%。

「宗教は現代人に癒しを与えることができそうですか?」という質問を出した。「はい」が77%。残り17%は「どちらとも言えない」だった。その理由として、「可能と思うが、過度の期待は禁物。宗教は、求める側の主体性が大切なので」「宗教は人生の支え」なので、(それさえあれば万事OKと)過度に期待されては困る」など。一般のかたが、宗教と聞くが身構えてしまう風潮のなか、カルト的宗教集団とは異なるスタンスを示す、細かな気遣いが感じられた。

後半では、「今の日本で、生きづらさを感じる最大の理由は?」というフリーアンサーの質問を投

るものとして、檀信徒一人ひとりの「自分史」を集め、お寺が、縁のあった人々の記憶ステーションとなるのだ。ふりかえりにふさわしい場。お寺で勉強会を行い、書き上げたものを本人が1冊(あるいは親戚等にも数冊配布)、菩提寺に1冊保管する。家でジッとワ

ードに向かってもなかなか書き出せないのだが、住職と一緒に

昭和の時代をふりかえりながら話をすれば、自然と筆が進む。独りよがりな自慢話にならず、時代背景を織り込んだ「読み物としての自分史」ができあがる。

さらに、寺に集積されたエピソードを、地元の若い起業家や、ニートやひきこもりの若者たちへも伝える機会を設ける。これが実現してゆけば、まさにお寺は「見え

ない活力を紡ぐステーション」になれるのだ。

アンケートのコメントから、寺サイドの素地は(おそろしくも昔も変わらず)充分に養われていることを感じた。あとは、一般の人々の意識がこちらへ自然と向く機会をつくるだけだ。

掲載号の問い合わせはhttp://www.ikoin.net

檀信徒の「自分史」を住職と一緒に

檀信徒の「自分史」を住職と一緒に

檀信徒の「自分史」を住職と一緒に

檀信徒の「自分史」を住職と一緒に

檀信徒の「自分史」を住職と一緒に

檀信徒の「自分史」を住職と一緒に

檀信徒の「自分史」を住職と一緒に

檀信徒の「自分史」を住職と一緒に

檀信徒の「自分史」を住職と一緒に

檀信徒の「自分史」を住職と一緒に

檀信徒の「自分史」を住職と一緒に

檀信徒の「自分史」を住職と一緒に

檀信徒の「自分史」を住職と一緒に

檀信徒の「自分史」を住職と一緒に

すべれ・けいこ氏行政書士、葬祭カウンセラー。『いいお坊さん ひといいお坊さん』(2011年、ベスト新書)の著者として、各地の僧侶研修・一般信徒向け講演に登壇。曹洞宗「現代にふさわ



しい教団の理念、教団のあり方に関する分科会」委員。生きつらさに向きあう任意団体へひとなみくを主宰し、宗教者や医師、士業者、葬送分野の専門家らと座談会を随時開催。

檀信徒の「自分史」を住職と一緒に

檀信徒の「自分史」を住職と一緒に